

訪問看護の小部屋

(広報委員会)

こんにちは！ 今回の訪問看護の小部屋は… 日々真剣に利用者さんに寄り添い頑張っている私たち… でも、こんな事もあるんです！

こんな事もしているんです！ 訪問看護師だからわかる？

訪問看護の「あるある」を集めてみました。

コロナ禍の訪問看護 「あるある！」

～2020年から始まった新型コロナウイルス感染症。

コロナ禍での訪問看護の日常、そこにある『リアル』をお伝えします～

物品編

- マスクは1日1枚と指示がありました。
- 物品確保が大変で、始めの頃は発熱者の訪問時
45Lのゴミ袋に穴をあけてガウン代わりにかぶって訪問しました。
- 新型コロナウイルス感染対策としてのPPE物品の確保が大変でした。
- クリアファイルでフェイスシールドを作りました。
- 現在は物品の供給も安定し、適切な感染防護具が手に入るようになりました。



業務編

- 訪問自体を拒否されることがありました。
- オンラインでのカンファレンスや研修が多くなりました。
- 実際に訪問をした後で利用者の発熱が発覚します。油断できませんでした。
- 発熱した家族に会ったという情報は早く教えてー、と思うことがありました。
- 法人、スタッフがコロナ陽性となった時に、事業所が大パニック！
各所への報告、行政への確認、訪問調整、スタッフの体調管理・・・
改めてBCPへの明記が大事だと感じました。
- PPE装備により利用者さんから「誰？」と言われることがありました。



休日編

- 休みの日も新型コロナウイルス感染者数が気になります。
- 雑誌やネットで“おうち時間～”などの記事を見つけるとステイホームしておうち時間を充実させている人たちがうらやましく感じました。
- 休日でも人混みを避けて生活し、自宅生活が多かったです。
- 宅配サービスでグルメを堪能しました。



良かったこと

- 企業や団体のオンラインの無料研修が増え移動がなくなり良かったです。
- 自宅で家事作業しながら研修を受けられるようになりました。
- 地区の会議や担当者会議がオンラインで実施可能になりました。
- 退院時共同指導もオンラインでできる事例が増えています。
- 利用者さんが、オンライン電話を使って遠方の親族と話せるようになりました。
- 新型コロナ感染が始まり、末期の方は病院での療養よりも在宅看取りを希望することが多くなりました。

その分、訪問看護の意義や必要性を強く感じる事ができました。

